

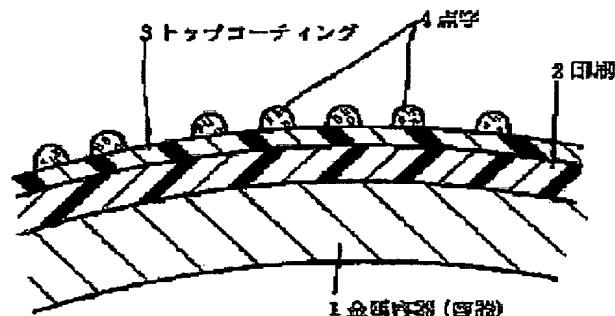
**COMMODITY-HOUSING CONTAINER**

**Patent number:** JP8324575  
**Publication date:** 1996-12-10  
**Inventor:** KANAO OSAMU  
**Applicant:** TAKEUCHI PRESS  
**Classification:**  
- **international:** B65D25/20; B41M1/18; B41M3/16; B65D1/40  
- **european:**  
**Application number:** JP19950130365 19950529  
**Priority number(s):** JP19950130365 19950529

**Report a data error here****Abstract of JP8324575**

**PURPOSE:** To totally eliminate the possibility that brailles being applied on a container slips off during the using period of time.

**CONSTITUTION:** On the surface of a container 1, optional characters and patterns are printed 2 by a normal printing means, and a top coating 3 is applied on the top of the printing 2. In addition, at appropriate areas on the top of the top coating 3, brailles 4 to show a content of the container 1 are integrally printed with a hardening ink.



---

Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide**BEST AVAILABLE COPY**

**THIS PAGE BLANK (USPTO)**

# 先行技術

(19) 日本国特許庁 (JP)

## (12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-324575

(43) 公開日 平成8年(1996)12月10日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>

B 6 5 D 25/20

B 4 1 M 1/18

3/16

B 6 5 D 1/40

識別記号 庁内整理番号

F I

B 6 5 D 25/20

B 4 1 M 1/18

3/16

B 6 5 D 1/40

技術表示箇所

Q

審査請求 未請求 請求項の数1 O L (全3頁)

(21) 出願番号

特願平7-130365

(22) 出願日

平成7年(1995)5月29日

(71) 出願人 000238614

武内プレス工業株式会社

富山県富山市上赤江町1丁目10番1号

(72) 発明者

金尾 修

富山県富山市上赤江町1丁目10-1 武内  
プレス工業株式会社内

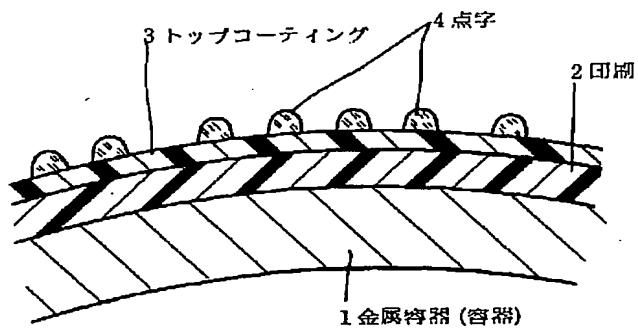
(74) 代理人 弁理士 宮田 信道

(54) 【発明の名称】 商品収納容器

(57) 【要約】

【目的】 容器に施される点字が使用期間中に脱落する  
おそれがない。

【構成】 容器1の表面に通常の印刷手段により任意の  
文字、模様を印刷2し、その印刷2の上にトップコーティング3  
を施し、更に該トップコーティング3上の適宜  
箇所に、容器1の内容物を示す点字4を硬化インキによ  
つて一体的に印刷してあることを特徴とする。



(2)

1

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 容器(1)の表面に通常の印刷手段により任意の文字、模様を印刷(2)し、その印刷(2)の上にトップコーティング(3)を施し、さらに該トップコーティング(3)の上の適宜箇所に、容器(1)の内容物を示す点字(4)を硬化インキによって一体的に印刷してあることを特徴とする商品収納容器。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、視覚障害者にも容器に収納してある商品内容物が分かるようにした商品収納容器に関する。

## 【0002】

【従来の技術】 従来この種の容器として実開平6-8208号公報記載のものを挙げることができる。これによれば、容器内に収納してある商品名の点字を配設したラベルを当該容器に貼着し、視覚障害者が容器の中味を誤らずに使用できるようにしたものである。

【0003】 しかしながら、上記点字を記したラベルは、通常、容器表面の印刷のトップコーティング上に貼ってあるため、接着強度が充分でなく、しかも指先でくり返し触られることから、容器内容物の残存期間中に剥離するおそれがあり、視覚障害者にとって不都合な問題となっていた。

## 【0004】

【発明が解決しようとする課題】 本発明は前記事情に基づいてなされたものであり、容器に施される点字が使用期間中に脱落する懸念の全くない商品収納容器を提供することを目的とする。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】 本発明は、容器の表面に通常の印刷手段により任意の文字、模様を印刷し、その印刷の上にトップコーティングを施し、さらに該トップコーティングの上の適宜箇所に、容器の内容物を示す点字を硬化インキによって一体的に印刷してあることを特徴とする。

## 【0006】

【実施例】 以下、本発明の実施例を図面に基づいて説明する。図1において、1はエアゾール缶等の金属容器であって、この金属容器1の表面にはスクリーン印刷やオフセット印刷などの通常の印刷手法によって文字や模様等の印刷2が施してある。この印刷2の上には熱硬化性樹脂によるトップコーティング3が行われている。このトップコーティング用いる熱硬化性樹脂は、透明性に優れ且つ適度な表面硬度と強度を有するもの、例えばエポキシ樹脂、アクリル樹脂、ポリウレタン樹脂、ポリエステル樹脂、アミノ樹脂、フェノール樹脂、メラミン樹脂等であり、また、これらを2種以上混合したものでもよい。さらにトップコーティングの塗布方法としては、特に限定されるものではなく、例えば浸漬法、ロールコ

2

ーティング法、ハケ塗り法、吹きつけ法のいずれであってもよい。

【0007】 上記に示した容器は従来の一般的な商品収納容器と基本的に変わりはないが、本発明はトップコーティング3の上に更にスクリーン印刷の手法により硬化インキを印刷し、完全に硬化させることによって金属容器1の表面に、凸状に表出する点字4を一体的に固着したところが最大の特徴となっている。硬化インキとしては、紫外線硬化型、電子線硬化型、加熱硬化型いずれの10インキであってもよいが、紫外線硬化型の硬化インキ（以下、「光硬化インキ」という）の方が、硬化速度及び硬化設備の簡素化、低廉化を総合的に考慮して利用に適するものといえる。

【0008】 そこで本実施例では光硬化インキを使用した。光硬化インキとは、近紫外線の吸収で速やかに硬化乾燥するインキをいう。この光硬化インキに使用される樹脂としては、不飽和ポリエステルをはじめ、ラジカル重合性の基を分子内に導入したアクリル樹脂、エポキシ樹脂、ポリウレタン樹脂などがあり、また添加される光20増感性物質（光重合開始剤）としては、例えジフェニルジサルファイド系化合物、有機色素系化合物、アゾ系化合物、ベンゾイン系化合物などを使用する。尚、希釈剤兼架橋剤としては、ビニル系モノマーを使用する。

【0009】 そして、予め文字、模様などの印刷2がしてあり且つ、その印刷2の上にトップコーティング3がしてある金属容器1の表面の適宜箇所に、前述の組成を有する光硬化インキによって容器の内容物名を表わす点字4となるように配した点状の突部を適数個印刷し、水銀灯による近紫外線照射を行なって前記突部を硬化乾燥

30し、トップコーティングしてある金属容器1の表面に点字4を一体的に固着する。この際、硬化反応がラジカル重合が中心であることから、酸素による重合禁止作用の問題を解決するために、インキ中にワックスを添加したり、樹脂中に酸素と反応しやすい官能基を入れたりして硬化反応を起こさせるようにする。尚、ワックスを添加したインキにおいては、高圧水銀灯から発生する熱により塗膜表面に浮いたワックスが溶解して硬化不良の原因となることもあるので、まず低圧水銀灯を用いて塗膜をゼリー状にまで固化させてから高圧水銀灯で硬化を完了する。このようにして硬化して形成した点字4は、視覚障害者が指先でさわって容易に読むことができるよう、とび出している高さが50～200μmの範囲になっている。

【0010】 本発明が適用できる金属容器としてはエアゾール缶をはじめ、アルミチューブ容器、飲料缶などが挙げられる。また本発明は金属容器に限らず合成樹脂容器にも適用できることは言うまでもない。さらに、点字4を得るために硬化インキで印刷する手法としては、スクリーン印刷に限らず、グラビア印刷やオフセット印刷であっても可能である。

50

(3)

3

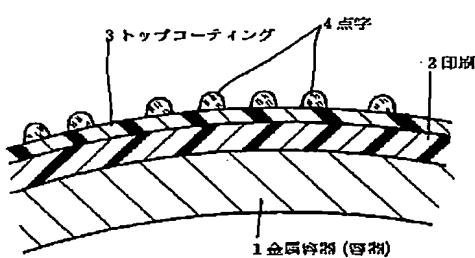
## 【0011】

【発明の効果】以上説明したように本発明は容器のトップコーティングされている上からでも点字を一体的に固定できるので点字が脱落するおそれは全くなく、視覚障害者による容器内容物の誤用を確実に防止する効果を有する。

## 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明による容器の要部を拡大して示す断面図

【図1】



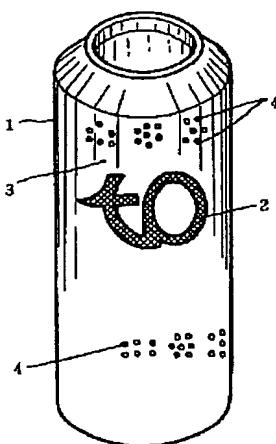
である。

【図2】本発明による容器の一例を示す斜視図である。

## 【符号の説明】

- 1 金属容器(容器)
- 2 印刷
- 3 トップコーティング
- 4 点字

【図2】



**THIS PAGE BLANK (USPTO)**